



613-001560 Rev.F 120808



最初にお読みください

CentreCOM® ARX640S リリースノート

この度は、CentreCOM ARX640S をお買いあげいただき、誠にありがとうございました。
このリリースノートは、取扱説明書とコマンドリファレンスの補足や、ご使用前にご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。
最初にこのリリースノートをよくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

1 ファームウェアバージョン 5.0.3

2 本バージョンで修正された項目

ファームウェアバージョン 5.0.2 から 5.0.3 へのバージョンアップにおいて、以下の項目が修正されました。

- 2.1 特定サイズのファイルをフラッシュメモリーに保存できないことがありましたが、これを修正しました。
- 2.2 IP フィルターや IP NAT で複数のエントリーを設定している場合、最初のエントリーしか動作しませんでした。これを修正しました。

3 本バージョンでの制限事項

ファームウェアバージョン 5.0.3 には、以下の制限事項があります。

3.1 USB デバイスを接続した状態での起動

USB デバイスを接続した状態で本製品を起動した場合、起動中に意図しないメッセージが表示され、また、起動後に USB デバイス関連のログが記録されないことがあります。表示およびログ記録だけの問題であり、USB デバイスの動作には影響ありません。

3.2 内蔵フラッシュメモリーから USB メモリーへのファイルコピー

 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「ファイル操作」

copy コマンドで内蔵フラッシュメモリーから USB メモリーにファイルをコピーするとき、コピー元に指定したファイルが存在せず、なおかつ、コピー先にコピー元と同名のファイルが存在している場合、エラーとならずにコピー先のファイルが削除されます。


3.3 リダイレクションの出力ファイル名

 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「ファイル操作」

 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「コマンドラインインターフェース」


CLI のリダイレクション機能でファイルを作成するときに、出力ファイル名として「!」や「>」を含む名前を指定すると、作成されたファイルを erase flash コマンドで削除できなくなります。これらのファイルを削除するには、重要なファイルを USB メモリーなどにバックアップした上で、erase all-flash-files コマンドを使用してください。

3.4 CLI ログインユーザーの削除

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「ユーザー認証」


CLI ログイン用のユーザーアカウントをダイナミックに削除したときは、設定内容をスタートアップコンフィグに保存してから再起動してください。新しい設定で再起動するまでは、削除したユーザーでのログインが可能ですのでご注意ください。

3.5 トリガー：IP スタティック経路の追加・削除アクション

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「トリガー」


action ip resume-route コマンド、action ip shutdown-route コマンドで GATEWAY パラメーター（ネクストホップアドレス）を指定すると、対象トリガーのアクションが正常に実行されません。action ip resume-route コマンド、action ip shutdown-route コマンドは、IFNAME パラメーター（送出インターフェース名）の指定が可能な場合にだけご使用ください。

3.6 PPPoE インターフェースの自動再接続設定

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「PPP」


切断状態の PPPoE インターフェースにおいて、自動再接続（ppp auto-reconnect コマンド）の設定を無効から有効に変更しても、PPP の接続が開始されません。自動再接続を無効から有効に変更した場合は、該当 PPPoE インターフェースをいったん無効化し、再度有効にしてください（shutdown → no shutdown）。

3.7 PPP プロファイルの設定変更

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「PPP」


PPP プロファイルの設定を変更した場合、保存していない設定が削除されることがあります。その場合は再度設定してください。

3.8 LCP Configure-Request の再送間隔

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「PPP」


LCP Configure-Request パケットの再送間隔が lcp timeout コマンドの設定値より短くなっています。

3.9 show mobile signal-strength コマンド

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「PPP」


PPP インターフェースの無効化後に show mobile signal-strength コマンドを実行しても、電波強度が表示されないことがあります。その場合は、同コマンドを再実行してください。


3.10 接続先電話番号の誤設定

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「PPP」

KDDI (au) の USB 型データ通信端末 DATA07 使用時に接続先電話番号の設定を間違えると USB ポートがリセットされます。その場合は正しい電話番号を設定しなおしてください。

3.11 BVI インターフェース

 [「コマンドリファレンス」 / 「ブリッジング」](#)

 [「コマンドリファレンス」 / 「IPルーティング」 / 「IPインターフェース」](#)


- BVI インターフェース（ブリッジグループ全体を表す仮想的なインターフェース）では DHCP クライアント機能（ip address dhcp コマンド）を使用できません。
- BVI インターフェース（ブリッジグループ全体を表す仮想的なインターフェース）が存在している状態で、関連するブリッジグループを削除してもエラーになりません。

3.12 32 ビットマスクの IP アドレス

 [「コマンドリファレンス」 / 「IPルーティング」 / 「IPインターフェース」](#)

あるインターフェースに 32 ビットマスクで IP アドレスを設定している場合、該当アドレスを含むサブネットの IP アドレスを他のインターフェースに設定することはできません。

3.13 UDP ブロードキャストヘルパー

 [「コマンドリファレンス」 / 「IPルーティング」 / 「UDPブロードキャストヘルパー」](#)


ip helper-address コマンドや ip forward-protocol udp コマンドの実行時に意図しないエラーメッセージが表示されることがありますが、表示だけの問題であり、UDP ブロードキャストヘルパー機能の動作に影響はありません。


3.14 DHCP サーバー

 [「コマンドリファレンス」 / 「IP付加機能」 / 「DHCPサーバー」](#)

DHCP サーバー機能を使用するときは、リレーエージェントを使わないネットワーク構成を組んでください。本製品の DHCP サーバーはリレーエージェント経由の DHCP Discover メッセージに回答しないため、リレーエージェント配下の DHCP クライアントは本製品の DHCP サーバーから IP アドレスを取得できません。

3.15 IPsec トンネルインターフェース

 [「コマンドリファレンス」 / 「IPsec」](#)

 [「コマンドリファレンス」 / 「IPルーティング」 / 「IPインターフェース」](#)

IPsec トンネルインターフェースでは、通過する TCP パケットの MSS 値を自動的に書き換えるため、「ip tcp mss auto」の設定を追加してください。

[コマンド入力例]

```
*Router(config)# interface tunnel 0  
*Router(config-if-tunnel)# ip tcp mss auto
```

4 取扱説明書の補足・誤記訂正

取扱説明書（613-001384 Rev.A）の補足および誤記訂正です。


4.1 未サポート機能

 **「取扱説明書」13 ページ**

特長欄に掲載されている下記の機能は未サポートです。

- ・ IPv4 over IPv4 トンネリング
- ・ IPv4 over IPv6 トンネリング
- ・ IPv6 over IPv4 トンネリング（IPv6 トンネル接続）
- ・ IPv6 over IPv6 トンネリング

4.2 INIT スイッチによる USB メモリーからのリストア

 **「取扱説明書」45 ページ**

INIT スイッチを使ってバックアップファイルをリストアするときは、USB メモリーにリストア対象のバックアップファイルだけを入れてください。USB メモリーに複数のバックアップファイルが保存されていると、どのファイルがリストアされるかわからないためです。

4.3 サポートする USB 型データ通信端末

サポートする USB 型データ通信端末につきましては、弊社ホームページでご確認ください。

5 取扱説明書とコマンドリファレンスについて

最新の取扱説明書（613-001384 Rev.A）とコマンドリファレンス（613-001491 Rev.C）は弊社ホームページに掲載されています。
本リリースノートは、上記の取扱説明書とコマンドリファレンスに対応した内容になっていないので、お手持ちの取扱説明書・コマンドリファレンスが上記のものでない場合は、弊社 Web ページで最新の情報をご覧ください。

※パーツナンバー「613-001491 Rev.C」は、コマンドリファレンスの全ページ（左下）に入っています。

<http://www.allied-teleasis.co.jp/>